

東京は、私たち宮城県に住む高校生には少し遠い存在です。東京にはこんなものがあるんだ、東京ってすごいんだというだけの、雲の上の存在でした。首都だけに、文化の発祥であり、いろいろなものが集まっていることはもちろん、企業や官公庁、そしてトップレベルの学校がある東京。私たちは、そんな環境でさまざまなことを学ぶことが出来ました。

東京研修は、いろいろなアクティビティによって構成されます。ディレクトフォースや、企業訪問、OB との座談会、東大生とのワークショップ、東大見学、そして模擬授業、、、と大きなものだけでもこれ程あります。まさに学びの絶好の機会といえるものでした。

ディレクトフォースについて、私たちはたくさんの方にお会いし、話を聞くことが出来ました。お集まりいただいた方々は皆々様が素晴らしい経歴をお持ちで、お話できたのは本当にありがたい経験でした。お越しいただいた先生方には、ご自身の体験に基づいて実に面白いお話を語っていただきました。日本のみならず、世界に通じていたからできるお話は、まさに目からウロコでした。それぞれの専門のお話はとても興味深く、知らないことがおおかったです。その中で、高校生たるものの心構えや生きていく上で重要なことを教えていただきました。特に心に残ったことが、コミュニケーションとは相手と自分の考えの違いを知ることである、ということでした。グローバル化の世界云々は全く別にして、友人や先輩と関わる時にも、このことは生かされるなと思い、斬新に感じました。

企業訪問では、私は外務省に行きました。私の将来の夢は外交官になることだったので、この東京研修で一番楽しみにしていたと言っても過言ではありません。霞ヶ関の官公庁が密集しているビル街の1つ、警察官や警備員による警護がどっさりの高層建築物が外務省でした。セキュリティも万全で、室内写真撮影禁止であったり、見学札の着用が義務であったりと少しどきどきしました。室内もところどころに段差があり、これはいざという時のためか、と考えたりもしました。私たちが最初に通されたのが記者会見室でした。ここで会見がされているなんて、、、と自分に当てはめて想像したりしました。滅多に出来ない体験でした。その後、外務省のことについて詳しくお話を聞かせていただくことが出来ました。外務省とは、「日本国と日本国民の利益の増進」のために活動する機関のことで、一般・総合職などからなる外務省勤務・総領事館勤務合わせて約6000人が働いているとのお話でした。外交官の仕事は大きく二つで、1つは国家間の諸問題を解決するよくイメージされる外交担当、もう1つが ODA と呼ばれる国際支援です。ODA では、無償・有償資金援助や技術援助をしているそうで、非常に興味深いと思いました。

途中で二高 OG の方がいらっしやって、お話していただきました。彼女は二高から東大文科一類に合格された方で、もともと外交官を目指していたということでした。海外に行きたい、という思いでいろいろな国に行かれ、留学もされたことが今の仕事に繋がっている

とおっしゃっていました。日本とは違う国で、文化も違うので、それを理解し準備することが重要であり、映画や本などで興味をしっかりと持ち、世界史や英語を完璧にすることが外交官として大切だと教えていただきました。

宿泊するホテルでは、二高 OB・OG と座談会を行いました。いらっしゃった方々は東大や一橋大といったトップレベルの大学生で、勉強の仕方や学校の面白いところなどを教えていただきました。私たちのまだ知らない大学生の日常に、憧れを抱きました。夢を持ち、それに向かって努力することが大切である、と皆さんが口を揃えておっしゃっていたことが特に心に残りました。

2日目の東大生とのワークショップは、憧れの東京大学での暮らしを垣間見ることができました。私にとって興味深かったのが、そのサークルの多さです。座談会の時にも少しいわれたのですが、東大のサークルは多くて独特で、折り紙サークルやみかんサークル、襖部もあるとのことでした。テニス関係だけでも30はあるということで、さすが東大という感想しか浮かびませんでした。また、東大は一年のときには学部が決まっておらず、成績と希望で決めることができるということが驚きでした。そのため、文系として入学しても、後に理系の学部に変更する人もたくさんいらっしゃるとのことでした。それが東大の魅力の1つであり、入学してからゆっくり選べるので便利と説明をいただき、全くその通りであると思いました。

東大のキャンパスを見学したときも、わくわくした気持ちは収まりませんでした。駒場キャンパスには綺麗な銀杏並木や新しそうな建物、巨大な図書館があり、本郷キャンパスには凝った作りの建物や、あの有名な安田講堂がありました。特に安田講堂は荘厳な雰囲気気を漂わせ、そこから投石や火炎瓶投下していたなんて想像もつかない静けさでした。駒場キャンパス・本郷キャンパス問わず、構内にスターバックスやドトールがあり、よく一般の方の交流の場になっているとのことでした。サッカーをしている少年たちもいて、なんていいところだと感激するほどでした。

文系を希望している生徒たちで、東大法学部の模擬授業を受けさせていただきました。内容は刑法で、2人の助教授の先生が教えていただきました。正直に言うと、理解することは出来ませんでした。もちろん内容は難解だったし、使っていた言葉も専門用語が多く、高校生には厳しいという印象でした。しかしながら、東大生は毎日こんな授業を受けているのか、それを理解しているのかと考えると、改めて東大生のすごさを知ることができたとともに、自分もこれが理解できるようになりたいと思いました。真剣に聞いてもわからない授業があることに驚きと感動を覚えました。

今回の研修は、先に述べた通り様々なプログラムや企画がありました。また、それらすべてに多種多様な目的もありました。きっとひとりひとりにとって違う目的であったと思

いますが、私にとって一番よく当てはまる結論は、「将来設計」であったと思いました。私は将来外交官になり、領土問題を解決したいと考えていますが、その具体的な職務を知ることができたのは外務省見学を通じてであったし、外交官などの国家公務員の輩出者 1 位は東大であることはワークショップで学んだし、外交官になるには東大が一番手っ取り早いのも研修を通じて学びました。夢を実現させるには、まず知ること、イメージすること、そして努力することが必要なんだ、と身にしみて感じるすることができた、そんな研修でした。

まず、自分にとって今何が重要であるか。何が必要であるか。それを知ることができたのは、この行事があったからです。明確な目標ができた今、もう努力することだけがゴールへの道です。それを気づかせてくれた、最高の二日間でした。

この度は私たちのためにわざわざお時間を作っていただき、親切かつ詳しく親身にお話をして下さった笹川平和財団の皆様、近藤玄大様、東大 Fair Wind の皆様、樋口助教授、成瀬助教授、そして二高 OB、OG の皆様をはじめ、様々な方々にご支援いただきましたこと大変感謝しております。本当にありがとうございました。また、二高の先生方も、この研修のために準備を重ねていただき、ありがとうございました。そして、二日間にわたって一緒に過ごしたライバルである仲間達にも感謝の言葉を送りたいと思います。まず知ること。そこから考えること。そして努力すること。この3つのことを常に念頭におき、これからの2年と8ヶ月を仙台二高生として悔いの無いように生活していきたいと思ひます。